

ペティアン・ナチュール・ロゼ 2021

Petillant Naturel Rosé
2021

ドメーヌナカジマのある長野県東御市は昔から巨峰の名産地。
その巨峰を使って出来るだけ美味しいワインを造りたい考え
この微発泡のにごりロゼワインを造りました。



- 特徴：
- ・影干による味わいの厚みと甘い香り
 - ・にごりの旨味
 - ・冷涼な東御市らしい酸味
 - ・一年を通して変化する味わい
 - ・亜硫酸無添加らしい柔らかさ

味わい

リリース後数か月はフレッシュなイチゴや桃のような甘い香りと甘酒のような酵母の香り、アセロラやスマモのような甘酸っぱい果実味と酸、余韻にほんのりと苦みが感じられます。夏を超えると外観もオレンジ色を帯びたピンク色に変化し、ヤクルトのような乳酸のニュアンスが出てきます。果実味もドライフルーツのような味わいに変わり、苦味を伴う余韻がワインに立体感を与える変化を見せてくれます。リリース直後から飲み頃ですが、2-3年寝かせるとアンバーワインのような色調に変化し、干し柿のような枯れた果実感とシェリーのような少し酸化的なニュアンスもお楽しみいただけます。

開栓時の注意

ガス圧は弱めの約2.0バールですが、酵母の澱が舞っている状態で開栓すると吹きこぼれる場合があります。開栓前に冷蔵庫で半日以上立てて冷やし、澱を瓶底に下ろしてから開栓してください。開栓すると、泡とともに瓶底に溜まった澱が上がって白濁しますので、濁るのを待ってからグラスに注いでいただくと一杯目から澱の旨味を味わって頂けます。発泡が弱くて濁らない場合は、市販の発泡ワイン用栓をして少し振って澱を舞わせてから注ぐのもおススメです。

料理との合わせ方

シャルキュトリー等の前菜から焼き物、揚げ物など、どんな料理とも相性が良いです。我が家では、餃子、豚しゃぶ、チーズダッカルビ、豚キムチのパスタ、お好み焼き等の豚肉料理やピリ辛味系のお料理、乳酸菌発酵食品などと合わせて楽しんでいます。

ワイン作り

農家さんから購入した東御市産の巨峰を、ぶどうの状態を見ながら数日～数週間陰干します。味わいが凝縮し、また熟した甘い香りが強まります。その後、腐敗果を丁寧に取除き、自作の手回し破碎機で軽く破碎（写真1）、長靴を履いてさらに適度に潰します。それを手動の油圧式バスケットプレス（写真2）にて半日から1日かけて搾汁、

樹脂製のタンクに入れると常温で自発醸酵が開始、そのまま約10日間でアルコール醸酵が終わります（写真3）。終わるとすぐ瓶詰で、その際に同じ巨峰の果汁を添加します。約一ヶ月待つと瓶内で果汁の発酵が終わり、酵母が作る二酸化炭素で微発泡ワインになります。澱の旨みを味わって頂くため、澱引きは行っていません。無濾過、無添加。2021年ビンテージはAlc.11%。※完全に無添加なので、16°C以下で保存してください。



写真1：手作りの破碎機

開業の2014年から巨峰でペティアンを造っていますが、最初は巨峰をビニール越しに足踏みのみで漬していましたが、粒が固くて余りに大変だったので2016年頃からホームセンターの材料で手作りの破碎機を作り、それを毎年少しずつ改良を重ねて使っています。この破碎機では葡萄の皮に割れ目が1すじ入るだけなので、この破碎機の後に長靴を履いて適度に漬しています。道具の改良は楽しみの1つです。

写真2：油圧式バスケットプレス

いまワイナリの搾汁はこの1台で行っています。2015年から導入して、2021年から外側の枠を木製からステンレス製に変えました。1日かけて搾汁していると木製の枠に果汁が染み込みますので、衛生面を考えると安心して使えるステンレスが良いと思って変えました。味わいが何となくクリーンになった気がします。



写真3：発酵の色合い



①発酵前

②発酵中

③発酵後

巨峰の搾汁直後は①のように色が濃く、甘くて酸っぱいジュースの状態です。タンクで9月～10月の室温におくと1, 2日で自発発酵が始まり気泡が出始めます。

5, 6日目には②の状態で酵母が沢山舞って白く白濁します。この時点でも甘くて美味しいカクテルのように飲めます。10日目くらいには気泡が少なくなり

③のように白みが減ってピンクになります。これに少し果汁を足して瓶詰すると、瓶内でまた気泡が生まれ微発泡ワインになります。

アルコール発酵はこれで終わりですが、瓶内でさらにリンゴ酸が乳酸に変わるマロラクティック発酵が自然に起こります。冬から春頃までの間に徐々にヨーグルトのような香りが出てきます。

ペティアン・ナチュール・ロゼへの気持ち♡

ワイン造りをするときは、「ワインを造るのではなく、美味しいワインを造る」といつも思っています。それは普段の食事を作る時やお客様を招いて料理を作る時、折角ならあとひと手間をかけて美味しいして、喜んで貰いたい、と思う感覚です。

急斜面で育てている生産量の少ない自社畠の葡萄は、もちろんしっかり美味しいワインに仕上げたいと思いますが、そうではない購入した巨峰であったり、低価格帯のワインであったとしても気持ちは同じで、あともう少し美味しいしたいと思っています。

ペティアン・ナチュール・ロゼの始まりはワイナリ開業の1年前の2013年、開業に向けて準備を進めていた頃。近くのワイナリで勉強させて頂いているときに巨峰でワインが造れることを知りました。翌年に果実酒製造免許を取得するためには、ワイン特区の年間最低製造量の2000リットルを超えるワインの製造が必要でしたので市役所の新規就農者支援の方に相談したところ、市内の数軒の巨峰農家さんを紹介して頂けて、2014年の秋に巨峰を購入できる事になりました。ワイナリのための葡萄の目途はとりあえず出来て、次は一番重要なワイン造りを考える段階になりました。

ワインの醸造はそれまで国内外4軒のワイナリで研修してきたので、自社のヴィニフェラ品種の醸造イメージは大まかには固まっていましたが、巨峰で「自分らしいワイン」をどう造るのか？という壁にぶつかりました。でも折角造るならそれは、製造量を稼ぐだけのワインではなく、できれば「オリジナリティ」があって、「売れ残らない」ような美味しいワインを造りたい。さらに生活のことを考えてしまうと、この巨峰のワインが美味しくなく、全部売れ残ったらワイナリのスタート間もなく廃業、、という不安や恐怖もよぎりました。次の秋まで、ただひたすらに1年間ずっと考え続けました。そしてオリジナリティを求めるために不安でも誰にも相談しませんでした。そして、もうこれ以上の巨峰ワインは考えられない、と行き着いて造ったのがペティアン・ナチュール・ロゼ 2014 でした。

生食用葡萄は水分が多めなので、水分を減らして味わいを濃くしたい。
そのためには、遅摘みか、陰干し。巨峰の木の負担を考えると遅摘みは難しい。
味わいを薄く感じないように、オリのあるにごったワインにしたい。
そのオリが全体に攪拌されるようにスパークリングにしたい。
そして、僕の好きな優しい味わいになるように自然酵母発酵の無添加にしたい。

試行錯誤の最初の2014ビンテージは、今よりガス圧が強く、開栓が難しかったですが始めて飲んだ時は、自分の想像以上に美味しいかも、と思いました。
そこから毎年試行錯誤を繰り返し、今に至っています。

エチケットの絵

2021年は子どもが生まれたので、それをモチーフにしました。
特に好きな絵本のきんぎょ、お気に入りのウサギのおもちゃが隠れています。
それと、今年から僕が始めた趣味のコーヒー焙煎の豆の絵も。